



Photo Takashi Matsuno

作家プロフィール 御宿 至 (みしく いたる)

1949年、静岡県に生まれる。イタリア国立美術アカデミー彫刻科(エミリオ・グレ教室)卒業(1977)。主要な展覧会等は、ローマ日本文化会館及びローマ国立近代美術館での『日本・イタリア新世代』展(1992)、スポレート市立美術館での『分解と化合』展(1993)、東京のフジタヴァンテ・ミュージアムにおける『第5回ヌーベルヴァンテ 御宿至彫刻展』(1994)、ローマ市立現代美術館での『ローマ現代美術選抜展』(1997)、ローマ大学付属現代美術実験美術館での個展『再生』(2005) スポレート現代美術館での個展『結界』(2006)、日本通運株式会社の創立70周年記念、モニュメント「安全の誓い」制作コンクール大賞受賞(2007)など。日伊両国に数々の作品が設置されている。

作家紹介

御宿至は静岡とローマを拠点に活動を展開している彫刻家です。2004年、ローマ大学付属現代美術実験美術館で開催された氏の個展に際し、美術評論家のエンツォ・ビラルデッロ(ローマ大学教授・西洋比較美術史)が静岡新聞に寄せた展覧会評の中に、次のような言葉があります。彼の作品は、「使用価値を失い、もうそれを持つこともない対象に精神的な意味や価値を取り戻すための緊張感に満ちた仕事」(2004年11月15日)。御宿は鉄やブロンズによる抽象彫刻でも高く評価されていますが、今回は、ビラルデッロ氏が指摘したように、廃品を含む様々な事物を組み合わせて、瞠目すべき状況を作り出しています。企画展示の題名「サムシング・グレート(偉大なる何ものか)」は、分子生物学者・村上和雄の言葉からとられているとのこと。芸術が、生命や宇宙、また日々の生活と地続きであるとのメッセージが込められています。(めぐりアート+キュレーター 白井嘉尚)

めぐりアート+とは

静岡市内のさまざまな場所を会場に開催されている展覧会「めぐりアート静岡」(主催:静岡市、静岡県立美術館、静岡市美術館)。
※今年度会期:10月22日~11月11日
「めぐりアート+(プラス)」は、これまで「めぐりアート静岡」に関わったアーティストへの新たな発表の場の提供に加え(プラス)、グランシップにご来館のみなさまに日常的にアート作品に触れていただくことを目的とした展覧会です。館内のさまざまなスペースに、年2組のアーティストの作品を展示していきます。

主催:公益財団法人静岡県文化財団・ふじのくに文化情報センター、静岡県
協賛:船村興産倉庫株式会社
協力:スター精密株式会社、有限会社加藤機工
めぐりアート静岡 2019 関連事業

めぐりアート+ 2019年度前期展示

2019.5.24(金) > 10.7(月)

御宿 *Mishiku* 至 *Itaru*

観覧
無料

館内
で開
催中
グラン
シッ
プ



SOMETHING GREAT

記憶の風景



〒422-8019 静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
<http://www.granship.or.jp>



2 エントランスホール
「遊戯 ~ 記憶の風景 ~」

W2340xD2200xH2140, W2020xD1960xH1960,
W1900xD1860xH1820, W1100xD1000xH980,
W940xD940xH860mm 計5点 傘、アルミ管等

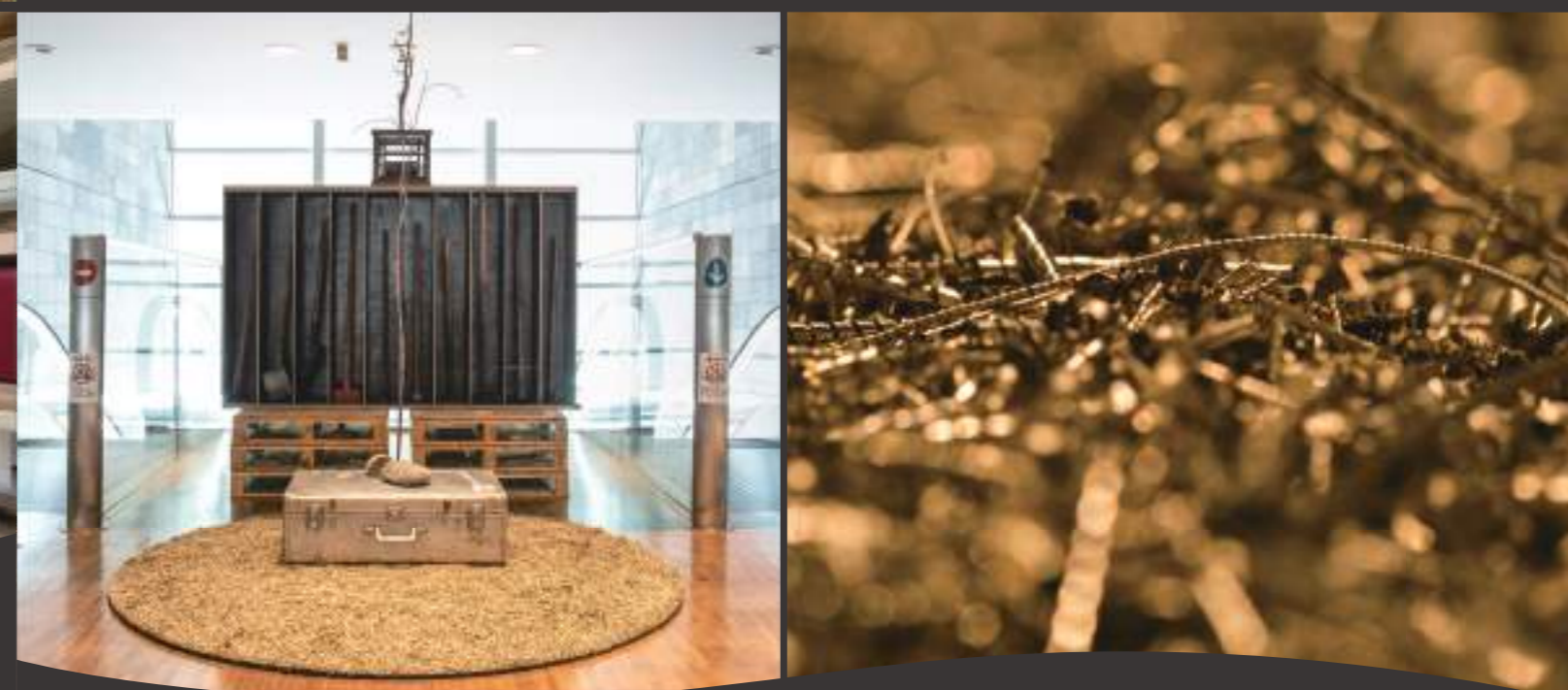
エントランスホールの作品は、天井から吊るすために、軽くなければならぬ。また、今回のキーワードは「記憶の風景」。そこで、日常、身の回りにあり、僕たちの「記憶」を含んだ事物に思いをめぐらすと、迷子になった傘や使われなくなった傘の多いことに気づいた。それらを雨具という有用性から解き放ち、素材としての骨組みと遊ぶうちに、張力と弾力を兼ね備えた魅力的なフォルムが出現した。名状しがたいサムシングとして浮遊することを願って。



1 ショーウィンドウ
「SOMETHING GREAT ~ 記憶の風景 ~」

W6200xD900xH4070mm W6380xD900xH4070mm 木製パレット(荷台)等

僕たちの身体には、無限大の「記憶の貯蔵庫」と「宇宙」がある。それを、世界の物流現場で無数に使用されているパレット（荷台）で表現した。僕たちは、身の回りで生起する全てのものを、五感、或いは第六感を通して「記憶の引き出し」に収める。そしてその「記憶」は、人生の歩みに、多くのヒントと勇気を与えてくれる。たとえば、限られた時間のなかで、より良いプランを考える時、物凄い勢いで引き出しを開け閉めしている自分がある。しかし、「脳内にはそよ風ひとつ吹いていない。サハラ砂漠にしようよ、北極にしようよ、あなたの脳内の温度は、37℃のまま変化しない。脳内では、電子が電子に衝突する、それだけである。」（『SUPER BRAIN』ディーパック・チョプラ、ルドルフ・E・タンジ共著、村上和雄監訳、保育社）。人体、脳内にある壮大な宇宙の神秘は、まさに SOMETHING GREAT である。



3 3F エスカレーター付近
「旅 ~ 記憶の風景 ~」

W2000xD3000xH2380mm
下駄箱、農具、旅行鞆(アルミ)、炬燵、石、真鍮切粉等

僕と家族の記憶を含んだ事物を用い、精神的な場の構築を目指した。それらの事物が僕を刺激し、僕の心が「記憶の引き出し」を開け閉めしだすのだ。そんな時、事物の記憶が、その時々空間と時間を立ち上げる。そのように出現した非日常の空間に、しばし時を忘れ心の旅をする。ちなみに、「事物」とは、父の仕事場(塾)にあった下駄箱、晩年野良仕事で使っていた農具、僕が東京での浪人時代に使っていた炬燵、24歳の時に片道切符で羽田を発ったときに携えたアルミの旅行鞆。そして最近出会った真鍮の切粉(きりこ)。一見、関係性がないように思える組み合わせも「記憶の貯蔵庫」からもたらされた。